

資料1-3「水銀含有廃棄物の処理費用の試算について」に記載してある数値等は、現段階での想定であり、今後精査していく過程で変更される可能性があります。

資料1-3

水銀含有廃棄物の処理費用の試算について

◎試算にあたっての条件設定等

収集・運搬

パターン A：従来どおり各市町村や一部事務組合、広域連合（以下、「市町村等」とする。）で収集し、それぞれが処理委託する場合

パターン B：県内を4ブロック（県北、県央、県南、天草）に分割し、クリーンセンター等の収集拠点に集められた廃棄物を、各ブロックごとにまとめて収集し処理委託する場合（以下、「ルート回収」とする。）

中間処理

パターン C：水銀廃棄物を北海道に直接運搬し、そこで水銀回収から黒色硫化、硫黄ポリマー固化まで一連の処理を全て実施した場合。

パターン D：一旦、九州内で水銀含有廃棄物から水銀回収処理を行い、抽出した水銀を北海道に運搬し、そこで残りの黒色硫化、硫黄ポリマー固化の処理を実施した場合

その他

- ・蛍光管及び電池の量は平成25年度の一般廃棄物処理実績を使用した。
- ・水銀体温計、血圧計については正確な量が把握されていないため10kg/年とした。
- ・既存の中間処理施設を活用した場合の試算とした。

※参考：中間処理施設の新規建設費用 約160億円

（処理能力 破砕15t/日、選別5t/日、焙焼100t/日）

- ・運搬費や処理費については、廃棄物処理事業者へのヒアリングによる。

◎試算結果

① 蛍光ランプ (単位：千円)

	C (北海道で全て処理)	D (九州内で水銀回収処理)
A (従来どおり運搬)	25,818	13,697
B (ルート回収)	24,740	13,452

② 電池

	C (北海道で全て処理)	D (九州内で水銀回収処理)
A (従来どおり運搬)	25,980	19,816
B (ルート回収)	24,748	19,536

③ 水銀体温計

	C (北海道で全て処理)	D (九州内で水銀回収処理)
A (従来どおり運搬)	6,780	1,694
B (ルート回収)	620	294

④ 水銀血圧計

	C (北海道で全て処理)	D (九州内で水銀回収処理)
A (従来どおり運搬)	6,785	1,698
B (ルート回収)	624	298

【全てに共通】

北海道に直接運搬する(C)よりも、九州内で水銀回収処理を行い、金属水銀のみを北海道に輸送する方(D)が安価

【蛍光ランプ、電池】

- ・各市町村等が行う従来どおりの運搬方法(A)と県内を4ブロックに分割して各ブロックごとに回収するルート回収(B)を比較すると、排出量が多い蛍光ランプや電池では、顕著な差は見られない。
- ・現在、市町村等では、一回に運べる量まで各施設の保管場所に貯めた後に処理業者に排出されている。

【水銀体温計、水銀血圧計】

- ・水銀体温計や水銀血圧計は排出量が少ないことからルート回収の方が安価となる。
- ・現在、市町村等では、蛍光ランプと一緒に水銀体温計、血圧計を運搬するなど、その効率的な取組が実践されている。